

# 【第6学年】児童の課題及び授業改善策

＜平成31年度＞

	児童の課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆話したり聞いたりする力は身に付いてきている。しかし、関係付けて話し合う力を更に高める必要がある。</li> <li>◆自分の考えや思いを文章で表現する力には個人差が見られる。</li> <li>◆文や文章を読み取る力は身に付いてきている。関連する事柄と比較したり、それらを解釈したりする力を高める必要がある。</li> <li>◆基礎的な言語の力は身に付いているが、日々の学習活動の中で生かすことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対話タイム、各教科、特別活動、行事において、話し合いの場面を意図的・計画的に設定していく。その中で、関係付けて話し合うモデル、学習の手引き、言葉の宝箱等を活用して指導を継続する。</li> <li>○振り返りノート、振り返りシート等を活用し、日常的に書く場面を設定する。苦手な児童には個別に指導・支援していく。また、より良い文章モデルを示しながら、指導を充実させる。</li> <li>○文章を読み比べる学習活動や解釈するための学習課題を意図的に設定していく。また、対話型学習を進め、お互いの考えを伝え合いながら、自分の考えを深めたり広げたりする活動を設定する。</li> <li>○あらゆる学習活動において、言語の指導を行っていく。国語科に留まらず、カリキュラムマネジメントを意識して日常的な指導を行う。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆歴史分野に高い興味・関心をもつ児童がいる一方で、苦手意識をもつ児童も多い。</li> <li>◆関連する資料を読み取る力は身に付いているが、課題解決のために様々な情報を整理したり、まとめたりする力に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が興味・関心をもって取り組めるような学習活動の工夫、学習課題の設定を意図的・計画的に行っていく。知的好奇心を高めるような資料提示や課題解決型学習の充実にも努める。</li> <li>○情報を整理する方法、情報のまとめ方について、モデルを示しながら全体指導を行っていく。また、課題自力解決のための時間を十分に確保し、経験を積みながら力を付けていく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆四則計算の習熟における個人差がある。基礎的な知識や技能を身に付けさせる必要がある。</li> <li>◆問題を解決するために様々な方法、数直線や図の有効性を理解させるための指導を多く取り入れる必要がある。</li> <li>◆学力調査等の結果から、表や図を読み取り、情報を整理する問題の正答率が低いことが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別のグループで学習し、個に合った指導を行う。支援を必要とする児童は放課後チャレンジ教室を活用し、個別に課題を与え学力の定着を図る。</li> <li>○数直線や図を積極的に活用させ問題を解決する有効な手段であることを知らせる。また、話し合い活動を多く取り入れ、様々な考えがあることに気付かせていく。</li> <li>○授業においてだけでなく、家庭と連携を図りながら、苦手な領域について繰り返し習熟をしていく。また、日常的にデータを処理する機会を意図的に設定していく。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆観察や実験には意欲的に取り組むが、予想と結果を結び付けて考察する力、まとめて表現する力には課題が見られる。</li> <li>◆理科に関連する学習用語や、応用力を試すような問題に課題意識をもつ児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察や実験を行う際には、その目的を明確に行うようにする。また、振り返りを確実にし、学習で明らかになったことを自分の言葉で書くようにする。また、グループ活動や振り返りの場面では、理解したことを自分の言葉で説明するような場を設定する。</li> <li>○学習用語が定着するように、教室掲示、学習シートでの確認、学習時における意図的な発問で定着を図る。応用力を高めるためには、学習プリント等を活用し、実践的に身に付けさせていく。</li> </ul>
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自らの課題を設定できるが、課題を追究する力が十分ではない。課題追究の方法を具体的に指導していくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人に具体的なめあてをもたせるとともに、毎時間の振り返りを確実にし、計画的に取り組む事ができるようにする。また、カリキュラムマネジメントを意識し、様々な教科と関連付けながら課題追究の学習活動を設定していく。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆課題に対して真面目に取り組む意欲もある。主体的に課題を見付ける力をさらに高めたい。</li> <li>◆技能面において個人差があり、苦手な児童への個別指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現力、鑑賞力向上の為、一人一人「考え工夫する」具体的なめあてをもたせると共に、学習の中で互いの表現の工夫や良いところを発表し合い、学びあい高め合う学習をさらに取り入れるような指導の工夫を行う。</li> <li>○個に応じた指導を継続して行う。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆構想をたて、見通しを持ち、計画的に活動する力を身に付けるための指導の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の活動を見合う時間を取り、お互いのよい点を見付け、話し合う活動を積み重ねる。</li> <li>○ワークシートを工夫して、めあてを意識して計画を立てたり、見直し、振り返りの時間を確保する。</li> <li>○参考作品や資料を調べる時間を取り、発想を広げる活動を設定する。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆調理や裁縫の実習に興味をもって取り組んでいるが、ミシン縫いをはじめとする技能面での個人差がある。技能習得のための個別支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別支援を充実させ、丁寧に分かりやすく指導していく。また、繰り返し練習をして経験を積ませるために、技能習得のための活動時間を意図的・計画的に設定する。習熟度別の活動、実習時の場作り等の工夫に努める。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆運動に対する意欲には個人差が見られる。</li> <li>◆マット運動の回転技を苦手とする児童が多い。その多くは柔軟性が低く、技の完成度に課題が見られる。</li> <li>◆投力に課題があり、強く、遠くまでボールを投げることに苦手意識をもつ児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の興味・関心を高める学習活動を設定する。運動量を確実に確保するとともに、めあてをしっかりとめさせ、ゴールを意識し、一単位時間の充実を図る。</li> <li>○準備運動の際には柔軟運動を取り入れる等、意図的・計画的に柔軟性を高める指導を行う。</li> <li>○ボール運動領域の指導では、投げ方の指導、投げる練習の時間と場を確保し、計画的に指導していく。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外国語に苦手意識をもつ児童もいる。ある程度の知識・技能は身に付いているが、それらを表現することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アクティビティを充実させながら、児童が進んで発話することやコミュニケーションを図る場面を多く設定する。また、振り返りを確実にし、自分の課題を明確にしながら次時へとつなげていく。</li> </ul>